

山 紫 水 明



第 1 3 2 号



表紙	1
特別寄稿	
「飛行神社」二宮忠八の思い	3
天皇皇后両陛下御奉送迎	6
皇太子殿下御奉送迎	6
皇太子殿下同妃殿下 愛子内親王殿下御奉送迎	7
神道青年全国協議会国家安寧祈願祭	8
活動報告書	9
各委員会報告	11
平成二十八年度新入会員紹介	16
近畿・中央地区報告	19
編集後記	24

飛行神社 （二宮忠八の思い）

飛行神社 宮司 友田 享

（二宮飛行神社・香川県）



明治三十四年十二月十七日、アメリカのライト兄弟が動力付飛行機で人類の夢であった大空を飛ぶ偉業を実現しました。その飛行より八年前の明治二十六年、「飛行器」を考案した日本人がいます。後に日本の航空界の父と称される二宮忠八です。現在ではあまり知られておりません。忠八翁の業績は戦前、国語や社会の教科書に載っていました。が連合国軍最高司令官総司令部（GHQ）の施策のもと国内での航空機の研究の放棄がなされ、それ以来、占領下では語られることはありませんでした。しかし、忠八翁の空への想いは絶えず、大正四年自邸内に創建されました飛行神社によって今も受け継がれております。

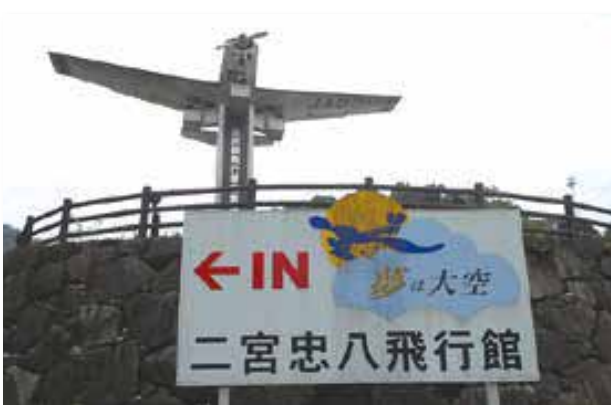
二宮忠八は慶応二年愛媛県八幡浜にお生まれになられ、カラス

の滑空する姿を見て飛行原理、固定翼の理論を発見されました。明治二十四年四月二十九日に「カラス型飛行器」というゴム動力の飛行機の飛行を成功させました。その後、明治二十六年には人が乗ることのできる「玉虫型飛行器」の設計図を完成させました。しかし、エンジンが買えず、軍に上申するも却下されました。退役後、自力で飛行機製作に臨むもライト兄弟の飛行成功の知らせを聞き製作中の飛行機を自身の手で取り壊されました。その後、航空事故の記事を目にしたことで、「自分も航空事故で亡くなっていたかもしれない。亡くなった殉難者を慰霊し、共に空の安全と発展を祈ろうではないか。」との思いから自邸内に飛行神社を創建されました。

日本では明治四



また今年は二宮忠八生誕百五十年の年でもありました。当社はもちろん生誕の地の八幡浜市やカラス型飛行器を飛ばした丸亀市、飛行原理を発見した香川県まんのう町の縦の木峠(峠付近の「道の駅・空の夢もみの木パーク」内に二宮飛行神社鎮座)など様々な場所で記念事業が執り行われました。きっと忠八翁もお喜びになられ、また一層お力を頂けることと思います。



忠八翁の夢見た飛行機は今では日常の交通網の一つとなりました。創建百年をたった百年と思われる方も少なくないと思います。しかし、航空業界にとってこの百年間の進化は著しいものでありました。今の航空界を忠八翁はどの様に思われているのでしょうか。発展の早さに驚かれていますでしょうか。それとも、更なる進歩を求めているのでしょうか。どちらにしても忠八翁は



十三年、徳川・日野両大尉が国内で初飛行を成功させました。それから五年後に当社は創建されています。そして昨年、創建百年という年を迎えることが出来ました。特に日本ではこの年、三菱重工のMRJ(三菱リージョナルジェット)の初飛行やホンダのジェット機製作、国産ステルス機飛行などが予定され、またボーイング社の旅客機にも日本企業の割合が増えるなど日本の航空元年と称され、創建百年とともに祝いする事ばかりでした。

開発はもちろん、整備をされている方、近年では宇宙事業の関係など最先端の研究をされている方々がおられます。その方々が口をそろえておっしゃるのが「計算や設計、技術は全て織り込んだものを成功させるため、最後は目に見えない力、神様の力が絶対に必要なんです。」ということです。その中には天候等の自然現象はもちろん、目に見えない力を必要とする日本人の大切な心を感じます。



ことと思います。

当社は「空は一つ」という言葉を大切しております。陸も海も限りがあるが空には限りがない。世界、宇宙すべて一つの空であるという意味を持っております。大正元年日本人で最初の航空殉難者である近藤元久氏をお祀りすることから始まった合祀の歴史は昭和三十四年に外国の方々も合祀することとなり現在では二十万八千余柱をお祀りするものとなりました。忠八翁の想いから殉難者の御霊と共に空の安全を祈り、航空業界の発展を祈念してまいりました。これからも殉難者の御霊安寧のため奉仕致してまいります。

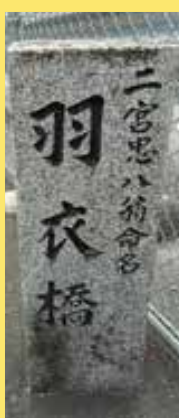
忠八翁が晩年「翼なき身も今は憂へす 空の便りの叶う飛行機」と詠まれました。航空業界の益々の発展を便として忠八翁に届きお喜びになられますことを切に願っております。



これからも同じ志を持たれた開発者や研究者のお力になり、共に技術の進歩を導き、航空業界に従事される方々の安全を祈り続けられている



(八幡神社・愛媛県八幡浜市)



二宮忠八ゆかりの地・愛媛県八幡浜市

天皇皇后両陛下御奉送迎



天皇皇后両陛下におかれましては、「第四十回国際外科学会世界総会」の御臨席に併せて地方事情御視察の為に十月二十三日～二十六日の四日間の日程で京都府に行幸啓遊ばされた。

二十三日午後三時半頃京都駅に御着。午後四時頃には京都大宮御所にお入り遊ばされた。

二十四日午前、京都国立博物館を御視察され、午後は「第四十回国際外科学会世界総会」の開会式に御臨席遊ば

された。

二十五日は、昨年に式年遷宮が執り行われた賀茂御祖神社・賀茂別雷神社の両社を御親拝行幸啓遊ばされた。

二十六日は、京都府立医科大学にて眼科の先端技術を御視察され、還行啓（御帰京）遊ばされた。

各日共、日本会議・京都を始め、京都府神道青年会、京都府氏子青年連合会で結成された「御奉送迎団」により行幸啓される各所に参集された方々に国旗小旗を頒布し皆様と共に盛大に御奉送迎を奉仕させて頂いた。



皇太子殿下御奉送迎

皇太子殿下におかれましては、全国育樹祭への御臨場に併せて地方事情御視察の為に十月七日から九日まで三日間の日程で行啓遊ばされた。

七日の午後二時頃京都駅に御着、京都大宮御所にお入りになられ育樹祭ご臨席にあたり御身の御調整をされた。

八日は、山城総合運動公園（宇治市）にて天皇皇后両陛下が平成三年に御手植え遊ばされた北山杉・しだれ桜をお手入れされ、午後は「けいはんな学研都市（関西文化学術研究都市）」に所在する民間施設において人口知能やロボットの研究を御視察された。



* 国旗小旗は「御奉送迎団」奉仕協力の各団体により一本、一本心を込めて奉製されています



九日の午前は、府民の森ひよし(南丹市)にて全国育樹祭の式典に御臨席、お言葉を述べられ、午後は「京都新光悦村(府営工業団地)」にて、八つ橋(和菓子)の製造工程、コマ作り木工教室(小学生製作)、仏像奉製を御視察された後、京都駅より還啓された。

御入洛の期間、各所に於いて京都府神道青年会を始め、京都府氏子青年連合会、日本会議・京都で結成された奉送迎団にて国旗小旗を皇太子殿下が行啓される各所に参集された方々に頒布させて頂き奉送迎を皆様と共にご奉仕させて頂いた。

皇太子殿下 同妃殿下 愛子内親王殿下 御奉送迎

皇太子殿下 同妃殿下 愛子内親王殿下におかせられましては、畝傍山東北陵(神武天皇山陵)拝礼の為、平成二十八年七月二十一日から二十二日の日程で御入洛遊ばされた。

二十一日は、京都駅において新幹線から近鉄線に御乗り換えをされ奈良県橿原市の畝傍山東北陵(神武天皇山陵)に行啓され拝礼、同日夕刻頃、再度御入洛され、京都大宮御所にて御宿泊された。二十二日は、京都御所を御視察の後、御帰京された。

両日共に京都駅において日本会議・京都を中心に京都府氏子青年連合会、京都府神道青年会の各会員にて「御奉送迎団」を結成し、新幹線・近鉄線改札内外にて駅利用者には国旗小旗を頒布し共に御奉送迎をご奉仕させて頂いた。

愛子内親王殿下の初めての御入洛ということもあり、御奉送迎者の心のこもった奉迎・奉送の声も各所から聞かれた。



神道青年 国家安寧祈願祭 全国協議会

去る平成二十八年六月七日・八日の二日間、神道青年全国協議会主催にて「国家安寧祈願祭」(神武天皇二千六百年記念事業)が橿原神宮(奈良県橿原市)にて執り行われた。当会からは、祭典奉仕に櫻井会長をはじめ東良会員、また伶人奉仕に生寫親睦委員長、杉田会員の計四名が参加した。初日は、参加者の顔合わせと習礼が主であった為、橿原神宮到着後、奉仕会員全員で正式参拝並びに御陵参拝をさせて頂いた。その後、祭典奉仕者、伶人奉仕者に分かれそれぞれ習礼を行った。終了後、全国各地域より参集した奉仕会員は個々のホテルに入り明日の祭典奉仕に備え



各々が参籠に順じた一晚を過ごした。二日目は早朝から昨日の雨天が嘘のように晴天となり、神武天皇の御加護を感じずにはいられない祭典の日となった。この日も到着後、奉仕別に分かれ奉仕会員は所役確認、伶人は音出し等、各々が祭典開始時刻までに気持ちを高揚させていた。そして祭典が開始され緊張感漂う中、普段見る事の無い百余名の斎服の祭員が本殿へ参進する姿は大変壮大な光景を

見せていた。祭典も無事修められ、引き続き直会が盛大に行われ、田中恆清神社本庁総長様や、久保田昌孝宮司様を始め関係各位のご挨拶をいただき厳肅かつ壮大な祭典の二日間は滞りなく修められた。今回の奉仕に参加した会員各々が経験した事を各奉務神社に持ち帰り今後のご奉仕に活かして頂ければと思う。

(平安神宮・生寫和頭)



平成二七年度 京都府神道青年会活動報告書

自 平成二七年七月一日
至 平成二八年六月三〇日

年月日	内 容	人数	場 所
七月 二日	監査会開催 「美しい日本の憲法をつくる」	四名	松尾大社西七条御旅所
五日	京都府民の会設立総会に参加	一五名	リーガロイヤルホテル京都
八日	新旧合同役員会開催	二六名	ホテルグランヴィア京都
八日	平成二七年度定例総会開催	八六名	ホテルグランヴィア京都
八日	同 懇親会開催(総勢一四〇名)	八一名	ホテルグランヴィア京都
九日	前会長・新執行部挨拶訪問	七名	水明社
一三日	教化委員会 第一回委員会開催	六名	レストラン菊水
二二日	京都府神社庁関係団体代表者懇話会出席	一名	京都府神社会館
二三日	広報委員会 第一回委員会開催	三名	桜屋うまいもん居酒屋
二七日	事業委員会 第一回委員会開催	五名	伏見稲荷大社
二七日	親睦委員会 第一回委員会開催	七名	鱒
二九日	組織委員会 第一回委員会開催	八名	薩摩こかもん京都四条烏丸本店
三〇日	第一回執行部会開催	九名	八大神社
八月 二日	第一回役員会開催	四名	向日神社
五日	近畿地区 第一回役員会出席及び助勢	一四名	リーガロイヤルホテル京都
五日	近畿地区 顧問参予会出席及び助勢	一四名	リーガロイヤルホテル京都
七日	教化委員会主催「鎮守の杜お祭り体験」	一一名	八坂神社
一七日	野球部納涼会(総勢二五名)	一四名	アサヒスーパードライ京都
一八日	渉外委員会 第一回委員会開催	八名	情熱食彩 京色
一九日	京都府神社庁「日本文化セミナー」参加	一六名	ホテル京都ガーデンパレス
一九〇日	近畿地区「禊・鎮魂錬成研修会」参加	九名	石上神宮
二〇日	京都府神社庁「こども参宮団」参加	五名	神宮他
二二日	神青協「硫黄島慰霊祭及び報告会」参加	一名	硫黄島・靖國神社他
二六日	事業委員会 第二回委員会開催	六名	鱒
二六〇日	神青協「平成二七年度夏期セミナー」参加	五名	神社本庁・靖國神社
二七日	組織委員会 機関誌「洛声」一〇七号発行	三六名	立正佼成会京都教会体育館
九月 一日	親睦委員会主催「親睦運動会」開催(総勢五七名)	一八名	大將軍八神社
二日	第二回役員会開催	五名	京都ロイヤルホテル&スパ
七日	近畿地区 第二回役員会出席	三四名	京都ロイヤルホテル&スパ
七日	近畿地区 第一回連絡会出席	七名	伏見稲荷大社
一五日	事業委員会 第三回委員会開催	九名	八坂神社
一五五	事業委員会 七五三ボスター発行	一二名	修学院離宮 ホテル平安の森京都
二二日	教化委員会 第二回委員会開催	七名	西陣織会館
二四日	渉外委員会主催「皇室関連施設清掃奉仕」	九名	伏見稲荷大社
二四日	※兼近畿地区事業(総勢二五名)		
二四日	京都府神社庁「第四回交通安全慰霊祭」助勢	七名	西陣織会館
三〇日	組織委員会 第二回委員会開催	九名	伏見稲荷大社

年月日	内 容	人数	場 所
十月 七日	広報委員会 第二回委員会開催	六名	楽酒楽食 清水商店
二二日	近畿地区「第二回全国戦歿学徒追悼祭」奉仕及び参列	四名	若人の広場公園
二七日	第二回執行部会開催	二一名	平安神宮
二七日	第三回役員会開催	一七名	平安神宮
二九日	日本会議・京都総会並びに憲法改正についての質疑応答会出席	六名	京都府神社会館
二九日	教化委員会主催研修会	一五名	平安神宮
三〇日	「いけばなの伝承と伝統」開催(総勢二五名)	一七名	町衆料理 京もん
九日	新旧役員合同懇談会(総勢二〇名)	一〇名	大將軍八神社
九日	教化委員会 第三回委員会開催	五名	おにかい
九日	親睦委員会 第二回委員会開催	二名	日本武道館
一〇日	憲法改正 武道館一万人大会参加	一〇名	大將軍八神社
一一日	教化委員会主催「七五三の集い」開催(総勢四九名)	一五名	伏見稲荷大社
一三日	事業委員会 平成二八年カレンダー発送作業	九名	南山はなれ
一三日	事業委員会 平成二八年カレンダー発行	八名	石清水八幡宮
一四日	京都府氏子青年連合会との懇親会参加	五名	笑い屋
一八日	第二回執行部会開催	九名	京都ガーデンパレス
二〇日	渉外委員会 第二回委員会開催	一一名	御香宮神社
二二日	京都府戦没英霊追悼慰霊祭並びに神政連京都府本部時局講演会参加	一八名	賀茂御祖神社
二五日	組織委員会 第三回委員会開催	四二名	がんこ三条本店
二六日	第四回役員会開催	七名	京都駅
二六日	組織委員会 機関誌「洛声」第一〇八号発行	六名	賀茂御祖神社
二七日	組織委員会・親睦委員会主催「OB懇親会」開催(総勢五二名)	二六名	賀茂御祖神社
三〇日	皇太子殿下御入洛御奉送迎	一五名	なか川
十二月 二日	近畿地区 第三回役員会出席	二名	沖繩県
二日	近畿地区 第二回連絡会出席	一一名	御池畔心本店
一〇日	野球部 納会開催	一六名	京都ロイヤルホテル&スパ
一〇一	神政連京都府本部	一〇名	旬菜料理 雫
一一日	沖繩京都の塔慰霊参拝団「参加	五名	京都府神社庁
一八日	教化委員会 第四回委員会開催	七名	北野天満宮
二〇日	第五回役員会開催	四名	鶏王 四条烏丸店
二〇日	広報委員会 広報誌「山紫水明」第三〇号発行		
二二日	広報委員会 第三回委員会開催		
二三日	日本会議・京都		
二三日	「大長節奉祝京都式典・講演会」出席		
二五日	京都府神社庁「平成二八年新年神職総会及び助成金交付式」出席		
二六日	渉外委員会「ヤチマタ募金活動」開催(四二、〇八四円)		
二六日	組織委員会 第四回委員会開催		

年月日	内 容	人数	場 所
一月 二七日	近畿地区 「国旗掲揚推進」二七御堂筋パレード」参加	一名	坐摩神社・御堂筋
三〇日	親睦委員会 第三回委員会開催	七名	鱈
三一日	第六回役員会開催	一六名	向日神社
二月 三日	京都府神社庁 「交通安全運動ヤチマタ募金活動」参加	一七名	吉田神社
八日	第七回役員会開催	一五名	京都センチュリーホテル
八日	平成二八年新年会開催（総勢九七名）	五六名	京都センチュリーホテル
一日	日本会議・京都 「建国記念の日奉祝京都式典・講演会」出席	四名	京都府神社会館
一七日	第四回執行部会開催	九名	北野天満宮
一九日	京都府神社庁 学生対象 「神職さん」と行く伊勢参宮」参加	四名	神宮
一九日	渉外委員会 第三回委員会開催	一名	翠雲苑
二八日	組織委員会 機関紙「洛声」第一〇九号発行	八名	うまいもんや室町応援団
二九日	教化委員会 第五回委員会開催	八名	長岡天満宮
三月 一日	第八回役員会開催	二名	神宮
三〇四日	京都府神社庁「お伊勢さん初まいり」参加		
四日	親睦委員会主催研修会 「洛語の魅力」を聞き落語を楽しむ （講師「桂福丸氏」開催（総勢二七名）	二〇名	平安神宮
八日	榎原神宮「本殿遷座祭遷座の儀」奉仕	一名	榎原神宮
八日	近畿地区 第四回役員会出席	六名	ホテルグランヴィア京都
八日	近畿地区 第三回連絡会出席	二〇名	ホテルグランヴィア京都
九日	近畿地区 地区研修会出席	一四名	宇治市内
一〇日	広報委員会 第四回委員会開催	六名	さかえ庵
一四日	渉外委員会主催「西山浄土宗・中部青年僧の会 との交流会」開催（総勢三五名）	一三名	がんこ二条苑
一六〇一七日	神青協「平成二七年度神宮研修会」参加	八名	神宮
二六日	教化委員会 第四回委員会開催	九名	博多華味鳥京都四条通店
二七日	事業委員会 第四回委員会開催	四名	伏見稲荷大社
二八日	京都府神社庁「神社総代会総会」出席	会長	ホテルグランヴィア京都
二九日	近畿地区 親睦ゴルフコンペ参加	二名	堺市天野山CC
四月 二日	天皇皇后両陛下御入洛御奉送迎	六名	京都駅
四日	天皇皇后両陛下御入洛御奉送迎	九名	京都駅
六日	親睦委員会 第四回委員会開催	九名	賀茂御祖神社
一四日	第五回執行部会開催	九名	石清水八幡宮
一七日	京都府神社庁「例祭」参列	三名	京都府神社庁
一八日	組織委員会 第五回委員会開催	八名	御香宮神社
一八日	渉外委員会 第四回委員会開催	八名	おやじの蔵
二一日	第九回役員会開催	一三名	大將軍八神社
二六日	神青協「第六八回定例総会」出席	二名	神社本庁
二六日	野球部総会	一六名	鳥せい本店

年月日	内 容	人数	場 所
五月 三日	日本会議・京都 「憲法フォーラム 京都府民の集い」参加	三名	京都府神社会館
六日	組織委員会 第六回委員会開催	一名	京の禪車 四条烏丸店
一一日	近畿地区第五回役員会出席	六名	北野天満宮
一三日	事業委員会 第五回委員会開催	五名	白松木屋町店
一六日	教化委員会 第七回委員会開催	九名	NINJAKYOTO
一六日	渉外委員会 第五回委員会開催	九名	ピアレストラン・ミュンヘン
一六〇一七日	神青協「北方領土の碑 現状視察並びに 清掃奉仕・修祓式」参加	一名	北海道根室市
一八日	広報委員会 第五回委員会開催	一〇名	大將軍八神社
一八〇一九日	東日本大震災復興支援活動視察	四名	宮城県
一九日	親睦委員会 第五回委員会開催	八名	まんざら亭
二〇日	事業委員会主催研修会「文化財の防火・防災について （講師 京都市消防局予防部）開催（総勢六八名）	五六名	伏見稲荷大社
二二日	第六回執行部会開催	九名	向日神社
二四日	渉外委員会主催「チャリテイバザー」準備作業	二二名	北野天満宮
二五日	渉外委員会主催「チャリテイバザー」開催 （四三二二名）	一五名	北野天満宮
二七日	親睦委員会主催「ボウリング大会」開催（総勢八五名）	五一名	ランドワン京都河原町さんか亭六角店
二九日	京都府神社庁「春の御田植え祭体験ツアー」参加	二名	大原神社
二九日	平成二八年度活動予算審議会開催	一六名	平安神宮
二九日	第一〇回役員会開催	一六名	平安神宮
三一日	組織委員会 機関紙「洛声」第二〇号発行	六名	ホテルグランヴィア京都
二日	近畿地区 第六回役員会出席	二六名	ホテルグランヴィア京都
二日	近畿地区 定例総会出席	一七名	横大路運動公園野球場
三日	近畿地区 野球大会参加		
七〇八日	神青協「神武天皇二六〇〇年記念事業 国家安寧祈願祭」奉仕	四名	榎原神宮
一四日	組織委員会 第七回委員会開催	八名	KICHIRI 河原町店
一五五	教化委員会 第六回委員会開催	一二名	伏見稲荷大社
一五五	渉外委員会 第六回委員会開催	八名	来恩
一六日	教化委員会主催「一般教化促進事業」学生対象 神職さん「と行く神社探訪」開催（総勢四二名）	一三名	伏見稲荷大社
一八日	事業委員会 第六回委員会開催	一〇名	伏見稲荷大社
一八日	広報委員会 第六回委員会開催	九名	酒蔵家
一九日	京都府神社庁「第二九回鎮守の杜フェスタ」参加	一〇名	長岡天満宮
一九日	親睦委員会 第六回委員会開催	六名	平安神宮
二二日	第七回執行部会	九名	八大神社
二九日	チャリテイバザー「収益金寄託	三名	京都府庁
二九日	第二回役員会	一四名	賀茂御祖神社
三〇日	広報委員会 広報誌「山紫水明」第一三二号発行 （七月五日発行）		
三〇日	組織委員会「平成二八年度会員名簿」作製		

委員会報告

事業委員会

当会事業委員会では、ブライダルハウス・オエ様、タカミブライダル（高見株式会社）様、キョウカネウェディング（株式会社京鐘）様のご協賛、ご協力のもと、毎年恒例の七五三ポスターを作製し、各神社に頒布いたしました。

尚、ポスター撮影は、ブライダルハウス・オエ様にご担当頂き、モデルは当会会員のお子様、松大路萌々子ちゃん、東良昇くん、中田貴大くん、中井悠衣ちゃんの四名に務めて頂きました。

ご協力頂きました皆様、ありがとうございます。



渉外委員会

皇室関連施設清掃奉仕



恒例の皇室関連清掃奉仕が平成二十八年九月二十八日に京都大宮・仙洞御所において参加会員三十名にて実施された。

当日は、集合時の時点で時折小雨の降る曇天ではあったが、宮内庁京都事務所のご厚意から清掃奉仕をさせて頂ける事になり、三年続けての中止は回避する事が出来た。

参加会員は合羽を着用し、竹箒や熊手をそれぞれ手に持ち「落ち葉」や「銀杏の実」を懸命に掃き集めていた。

途中、雨が強くなり始めた事もあり清掃奉仕は一時間程で終える事になったが今回の清掃奉仕後、十月上旬に皇太子殿下が大宮御所に御宿泊される由、漏れ承っていたという事もあり「少しでも清浄な場に」という会員の皇室に対する強い崇敬の念が伝わってくる姿が見られた大変意義のある一時間であった。

清掃奉仕後は待機所（休憩所）にて三十分程休憩をさせて頂き、その後は御厚意により京都大宮・仙洞御所を二時間程、宮内庁京都事務所職員の案内のもと拝観させて頂いた。参加会員は、興味深い説明に耳を傾け、随所で手持ちのカメラで撮影をしていた。

再び待機所（休憩所）にて昼食を頂き清掃奉仕は修められた。

午後四時半より「ホテル平安の森京都」にて開催される懇親会までの時間を当日拝観受付が実施されるようになった「京都御所」の拝観や京都市内の神社参拝等に充て各々が研修時間として自己研鑽に努めていた。

懇親会は、近畿地区会員、また氏子青年連合会会員との親睦も深められ終始和やかな雰囲気の中進められ盛会の内に散会となった。



最後に、清掃奉仕の受け入れ、また準備や当日の対応を快く引き受けて下さった宮内庁京都事務所関係各位には篤く御礼申し上げます。



渉外委員会

京都府に贈呈（チャリティバザー収益金）

チャリティバザー（平成二十八年五月二十五日に北野天満宮で開催）の収益金より「三十万円」が、平成二十八年六月二十九日、京都府庁舎内京都府府民生活部「安心・安全まちづくり推進課」の、京都府府民生活部長様に櫻井会長より贈呈された。

当日は、櫻井会長、田中渉外委員長の名が出席し、京都府府民生活部長様と懇談の後、贈呈式が行われた。

贈呈式では、京都府府民生活部長様より感謝の辞を頂戴し、櫻井会長からは「これからも青年神職の力をこの事業に注ぎ、社会福祉活動や交通安全推進運動の一旦を担っていききたい。」と、熱意の籠った言葉が聞かれた。会員の皆様にはこの事業の趣旨をご理解頂き、是非、積極的に「チャリティバザー」や「募金活動」に参加して頂きたい。

